

第二二二回ペン川柳会

令和四年十一月二十九日

お題 「洗・洗う」

■ 三春 (火酒)
ウォッカ

予報士の「洗濯日和」要らぬ世話
洗つても消えやしませんシミとシワ

■ 塚田 (拿々)
だだ

皿洗い長年やると上手くなり
最近は人生の友洗面所

■ 曾山 (酪帝)
めいてい

八十路でもまだ洗うべき足残り
はげあたま
洗脳は禿頭でも効果あり?

■ 山縣 (安兵衛)
やすべえ

洗い髪そいう事もあったよな
もう過去は洗い流して先へ行く

■ 西川 (酔雅)
すいが

八十路入り過去を洗って頬ゆるめ
アル中で食器洗いも禁じられ

■ 安藤 (晃二)
てるつぐ

洗足や池を巡りて交番へ
芋洗う恐怖の街にご用心

■ 八木 (明迷)
めいめい

洗髪を洗頭というハゲおやじ
洗淨に血が流れては座薬入れ

■ 松谷 (零門)
れいもん

コロナ禍で死語になったか盃洗も
補聴器は洗ったあともよく聞こえ

■ 浜田 (我々好)
ウイスキー

いつ終わる手洗いうがいにマスク面
イモ洗う人混みカボチャ牙を剥く
つら

■ 大野 (だし)

風に乗り銀河鉄道身を洗う
不思議だな洗湯がにぎわうコロナ禍で

■ 稲宮 (井波)
いなみ

洗い出しお前のガスとなすり合い
宗教か洗いざらいが教えとは

世話人 塚田 實(拿々)
ただ